

廿日市市生涯学習推進方針策定に関する 職員研修会 ニュースレター vol.3

第3回 職員研修会 日 時：令和5年12月11日(月)14:00~16:30 場所：山崎本社みんなのあいプラザ多目的ホール
参加者：35名(職員29・社会教育委員6名)

第3回職員研修会では、はじめに市民や団体を対象としたアンケート結果、これまでの研修会のキーワード等をもとに作成した廿日市市の生涯学習のありたい姿のたたき台を紹介しました。

前半は、講師の山川尚美さん(広島修道大学人文学部 教授)にご講演いただき、社会教育の定義、社会教育と生涯学習の考え方等について共通認識を深め、その後のトークセッションでは、山川さんと檜谷邦茂さん(一般社団法人小さな拠点ネットワーク研究所)の対話を中心に、これからの生涯学習・社会教育のあり方を考えました。参加者からの質問や津田市民センター「さいき部!」の事例を採り上げながら、個の学びや幸せと地域の幸せの関係性、支援者としての社会教育行政の役割や評価にも話題が及びました。



感想・気づきなど(抜粋)

社会教育と生涯学習の関係がはっきりわかりスッキリした/理念に基づいて領域で実践するとともに、共有できることは社会教育、学校教育、家庭教育で実践したい/まずは個としての幸せが大事だという話、場づくりの工夫、個人の生きがいや公共財になるという話が印象的だった/やりたいことがある人を「応援」もできるようにという話が新鮮だった/やりたい人の応援をする、社会教育という言葉が印象的だった/生涯学習や社会教育という言葉がもう少し柔らかい言葉に変わるといいかなと思った/一人一人の「やりたい」を安心して出せる場をつくること、そういう場づくりの支援をしていくことが大事なのかな/自分も周囲も成長できていくコミュニティがたくさんできると、地域全体が幸せになる/個の充実が周りの幸せにつながる/学びに対しての関わり方など業務遂行に関して改めて認識した/長い目を持って相手が何を望んでいるのか?地域がどのように変わりたいのかなど幅広い目が職員として必要/学習者が何を求めるかで行政が関われる内容も変わるのかな/「評価」についてあらためて考えさせられた/評価には表れないけど、いい取組してるよね、というパラドクスがなくなるといういいな/学びたいという主体的な気持ちがあることを信じて、安心して学べる学びの場を作ることが必要

これからの廿日市の 生涯学習・社会教育のあり方を共に考える

人と社会の幸せを紡ぐ
社会教育・生涯学習



◆<社会教育とは> *社会教育法などより
家庭教育、学校教育など教育の領域
社会教育の主体は民間事業者を含むすべての市民
…行政の仕事は、やりたい人を発掘したり、やりたい人が形にできるように場や環境をつくったり応援すること

◆<生涯学習とは> *教育基本法などより
教育3領域や自己学習を含む概念・理念
いつでも・どこでも・だれでも 学べる状況
+ **学んだ成果を生かすことができる社会の実現**
…主体的な学び、自己実現、他の人も喜んでくれる学び。
楽しいと思えることからスタートしましょう。

◆廿日市市で目指そうとしているところは?

※第3期廿日市市教育振興基本計画より
社会教育では、全ての人がいつでも自由に学習し、気軽につどい、学習の成果が生かされ、地域の絆を大切にしたい学びを進めています。

廿日市市の社会教育の定義は国の答申等よりゆるやか
社会教育の良さ × 生涯学習の理念
= 廿日市市の目指すところ

◆生涯学習、社会教育、学校教育が
共通の考え方・目指すところを一緒に考えることが大事

市民一人ひとりも幸せで、学校教育、社会教育行政・施設に携わる皆さんも幸せでないと続かない

目指すのは
「いつでも どこでも だれでも well-being な状態」

アンケート結果 ■学びの場が公民館ではなかった/オンラインでの学び、つながりが楽なのでシフトしている/これから学習する場所は公共施設や市民センターというのが意外/若い人の傾向を知りたい/人材不足は活動団体だけでなく社会全体の困りごと

ありたい姿 ■「つながらないといけない」という無言の圧/コロナ禍でつながりの認識が変化/つながるが重いだなんて!/?つながりたくない人もいるのは全世代共通では/つながりたいがどうしたらいいかの悩み/安心できる場がいい関係を/楽しいがスタートで結果的に学びにつながる/ウェルビーイングの言葉がわからない/個人の幸せ、全体の幸せの切り口がわかりにくい

生涯学習課より 今回は社会教育と生涯学習について自身の業務や活動と結びつけながら整理していく時間でした。まちが元気になったり周りの幸せのためには個の充実が起点というお話もありましたが、子どもも大人も生涯にわたって幸せに暮らしたいという願いは皆一緒だと思います。それを叶えるために、あらゆる教育があることを再認識し、生涯学習の場や環境を浸透させていくことを大切にしていきたいと思えます。